

## 特集：富士山とともに

「富士急行と富士山麓観光」

富士山を保全し、  
良質な  
国際観光地を  
目指す

「世界遺産登録は、ゴールではなくスタートである」と言われる。

世界遺産に登録されることは、

その価値を次の世代へ継承する

責任を負うことを意味するからだ。

特に富士山は、ユネスコから

「保全状況報告書」の提出が求められている。

地元自治体は、急増する観光客を受け入れながら、

富士山の保全と安全対策について検討を重ねている。

本格的な夏山シーズンを前に、

横内正明山梨県知事にお話を伺った。

文●茶木 環／撮影●織本知之



山梨県知事

## 横内正明

SHOMEI YOKOUCHI

日本の宝から世界の宝へ

——富士山の世界遺産登録で、山梨県の観光需要が大変伸びています。

横内 富士山の世界遺産登録が正式に決定したのは昨年の6月22日ですが、2013年度の山梨県の入込観光客数は、前年比で約10%増加しました。富士山周辺に絞ると、約13%の増加を見せています。

中でも、外国人観光客の増加が目立ち、観光庁の外国人観光客に関する「宿泊旅行統計調査」では、前年比で約40%増となりました。国別では、中国・韓国・台湾からの観光客が以前と変わらず多いのですが、タイやインドネシアの方々が増え、欧米も含めて多様な国からお越しいただいているのが最近の特徴です。

日本人観光客では、関西方面からの観光客が増えました。山梨県は西日本からのアクセスがあまり良くないため、これまで、関西方面からの観光客が少なかったです。東海道新幹線の車窓から、つまり静岡側の富士山を楽しむのが一般的でしたが、世界遺産の登録であらためて富士山に関心を持たれるようになり、富士五湖など山梨側の景勝地にもお越しいただけるようになりました。

現在、富士山麓では、東富士五湖道路の須走IC以南の道路整備が進められており、これが完成すると、東名高速道路と東富士五湖道路・中央自動車道が高速道路規格で接続します。2020年の開通を予定していますが、そうなると関西

方面からの利便性が大きく改善され、今あるような交通渋滞も解消される。さらに多くの方々に、便利にお越しただけになると思います。

——世界遺産の登録と同時に、富士山の保全や安全対策が課されました。

**横内** ユネスコ世界遺産委員会は21カ国で構成されていますが、富士山の世界遺産登録については、19カ国が賛成の演説をしてくれました。世界遺産としては珍しく、それだけ国際的に高い評価を得たということですね。

日本の宝から世界の宝になった富士山の安全や景観、環境を、どのようにして守るのか。ユネスコの諮問機関イコモスからは、2016年2月までに「保全状況報告書」を提出するよう求められています。

イコモスの勧告に対応するには、入山者・登山者の管理や安全対策、景観や環境の保全など、さまざまな課題を一体的にコントロールする必要があることから、知事政策局内に「富士山保全推進課」を設置し、県庁を挙げて対応に取り組んでいます。また、静岡県・山梨県の関係者で構成する「富士山世界文化遺産協議会」を設置し、広域で取り組むべき対策や報告書へ盛り込む内容を協働で検討している最中です。

**登山者の抑制と安全対策**

——山麓への観光客だけではなく、富士登山者も増えたと思えますが。

**横内** 6月22日に世界遺産登録が決定し

て、7月1日が山開きですから、昨年は登山客がどっと押し寄せたのではないかと懸念していました。既に富士山は登山者で満杯で、さらに増えると非常に危険です。多くの登山者は富士山の頂上でご来光を見ようとしますから、明け方、八

ヶ九合目周辺で登山者が集中する。ここは急勾配で、万が一転倒して将棋倒しになったり、落石があったりすると事故につながります。これが心配でした。

ただちに登山者の抑制と安全対策に取り組む、結果、昨シーズンは安全を確保することができました。登山者数も2012年度が31万8565人だったところ、31万721人に抑制しています。

——具体的には、どのような安全対策を進められたのですか。

**横内** 一つは弾丸登山の抑制です。五合目を夜間に出発して、夜通しで一気に富士山頂を目指し、下山する。これは非常に危険ですので、各方面に自粛の呼び掛けをお願いし、3割ぐらい減らすことができました。

マイカー規制も効果がありました。昨年7～8月のマイカー規制は、一昨年の15日から31日に倍増させており、今年は53日間規制します。マイカー規制は、環境対策はもとより登山者の抑制による安全確保にもつながります。ただし、富士

スバルラインの収入減に直結しますから、バスの通行料金を5500円から7900円に値上げしました。こうした値上げは本来、バス運賃に反映されて利用者負担となりますが、富士急行では利用者配慮し、事業者負担で賄っている

ようです。

さらに、富士山の保全について、登山者にも意識を高めていただくこと、昨年、実験的に行った富士山保全協力金の徴収は、今夏から本格的に実施します。五合目から上を目指す登山者を対象に任意で1000円を徴収し、集めた協力金は、トイレの新設や改修、救護所の整備拡充などに充当します。

**長期的な視野に立つて整備を進める**

——山梨県のインバウンド対策について、お聞かせいただけますか。

**横内** 外国の方々は「富士山に行きたい」と思われるのですから、何県かということ自体はあまり関係がない。そこで、静岡県や神奈川県と連携して「富士山と箱根の観光」という形でキャンペーンを行っています。一昨年はタイ、昨年がインドネシアに出向きました。経済成長が著しい東南アジアは潜在的に海外旅行のニーズが高く、現地の旅行エージェントも日本に関心を持っています。見所や観光ポイントなどをPRしに行くこと、確実に効果があります。

一方で、外国人観光客に不自由なく観光していただける「環境」を、整備していく必要があります。観光庁は6年後の2020年に、訪日外国人人数2000万人を目指しています。これは現在の2倍に相当しますが、富士山周辺は、現在の増え方から考えると、およそ3倍増になる。

その時に、果たしてどのような対応が

できるのか。6年後を見据えて、検討と準備を進めています。

現在、外国人観光客が一番困るのは、日本でスマートフォンが自由に使えないことだそうです。そこで山梨県では「やまなしフリーWi-Fiプロジェクト」として、観光客が無料で利用できるWi-Fiスポットの整備を全県的に進めています。現在、約1500カ所に設置済みで、これは全国的に見ても多く、好評を博しています。

——最後に富士山観光をどのような方向性で進めていくのか、お聞かせください。

**横内** 世界の宝となった富士山をしっかり保全していくことが山梨県の責務です。すべての住民がその意識を持ち、一体となって、国際的な観光地をつくりあげていきたいと考えています。目先の利益を追求し、安易な観光振興を進めるだけでは、いずれ観光客は離れてしまう。マイカーや登山者、施設開発などで一時的に規制を行っても、長期的な視野においては着実に観光客が増加する地域づくりを目指しています。

世界遺産の登録は「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」です。富士山の美しさを維持するとともに、周辺の環境や街並みも、それにふさわしいものとして配慮されなければなりません。保全と同時に改善も進めて、富士山の周囲を整備していく。世界中の人々が訪れる質の高い観光地として発展させる。それが結果的には、地域の繁栄と継承につながると考えています。